

視無警告の



発行所
新潟日報社

〒950-1189
本社 新潟市西区善久772-2
郵便振替口座 00620-2-538

■購読申し込み 0120-0840-20

■読者応答 025-378-9448
(午前10時～午後5時 土、日曜、祝日は除く)

■写真サービス 025-378-9320
(午前9時～午後5時 土、日曜、祝日は除く)

■番号案内 025-378-9111

■日報ホームページ
<http://www.niigata-nippo.co.jp/>

©新潟日報社 2008年

はがれたベール

<1>

検証・設置審査

これほどの激震に襲われた場所になぜ、原子炉の設置が許可されたのか。中越沖地震で、阪神大震災と同じ最大で震度7を記録し

名前利用「嫌気差した」

突然の辞意

「そういうのなら辞めさせていただきます」

七七年、東京・霞が関。柏崎刈羽原発1号機の耐

震安全性を審査する場で突然、予想もしなかった

審査は大詰めを

発言が出た。それを、科

学技術庁(当時)の原子力安全審査官だった塚腰

勇六九ははつきりと覚えている。審査は大詰めを

た東京電力柏崎刈羽原発。国は一九七七年、専門家による安全審査の審議を経て1号機の設置を許可した。しかし、中越沖地震の揺れは設計時の想定を大幅に超えた。さらに周辺海域に大規模な活断層の存在が明らかになったことによって、国による安全の「保証」は大きく傷ついた。非公開で行われ、厚いベールに覆われてきた三十一年前の安全審査。かかわった人物の証言を基にその実態を検証する。

(関連特集31-34面に)

揺らぐ安全神話
柏崎刈羽原発

気比ノ宮断層位置図



分科会は地質や建築の専門家十三人によって構成。まとめ役の東大工学部教授だった大崎順彦

「途中で議論から、辞めろ。言ったんで大崎教授だった大崎順彦

1号機の安全審査を担当したのは、原子力委員会の原子炉安全専門審査会(炉安審)内に設けられ

「議論」活断層研究を審議する分科会の真つ

「途中で議論から、辞めろ。言ったんで大崎教授だった大崎順彦

きょうの紙面



18 高
2 年金
38 県内
39 コー
元日発行

断層権威



日本海の荒波の向こうに見える東京電力柏崎刈羽原発。新年態が続く

中越地震の仮設解消

旧山古志住民退去が完了

二〇〇四年十月の中越地震で全村避難し、最後まで仮設住宅に入居していた旧山古志村(長岡市)の住民が入居期限となつ

ていた十二月三十一日、同市陽光台の仮設住宅から退去した。これにより、ピーク時には被災地全体で二千九百七十二世帯、九千四百八十四人が暮らした中越地震の仮設住宅はすべてなくなった。(関連記事38面に)

中越地震による仮設住宅は、旧十三市町村が六十三万戸に計三千四百六十戸を建設。山古志住民の仮設住宅には最大時で約五百六十世帯、約千七

百人が入居していた。旧山古志村では、全世帯のうち五集落百四十一世帯に出されていた避難指示が〇七年四月一日まで継続されたため、入居期限(二年間)が二度延長され、避難生活は最長で三年二月に及んだ。

米国の信用力が低い人向けの住宅ローン(サブプライムローン)問題は、金融商品の実体ははっきりしないことが市場の混乱を引き起こす要因になったことから、情報開示の強化によって再発防止を目指す。

米国や欧州の金融監督当局も新たな開示ルールを検討しており、主要国

証券化商品

開示ルール

金融庁「サブプラ

金融庁は三十一日、住宅ローン債権などを証券化した金融商品の情報開示を強化する自主ルール策定を、証券業界に要請する方針を固めた。金融商品に組み込まれた貸出債権などを詳しく示し、投資家が商品の内容やリスクを把握できるようにする。

米国の信用力が低い人向けの住宅ローン(サブプライムローン)問題は、金融商品の実体ははっきりしないことが市場の混乱を引き起こす要因になったことから、情報開示の強化によって再発防止を目指す。

米国や欧州の金融監督当局も新たな開示ルールを検討しており、主要国

08年元日号92ページ

第2部 テレビ・ラジオ番組と芸能
第3部 スポーツ特集 北京五輪へ

あすの朝刊は休みます
きょう元日(火)は新聞製作を休み、付朝刊は休刊とさせていただきます。
新潟

新春三大美術展あす開幕

記事 36面

地震国・日本

となげ位置に和崎大才屋多々知、
ていたという事実を知ったとき
にまず感じたのは、七〇年代に
活断層の評価がきちんとされて
いなかったこと。その結果が現
実になつた。

原発の安全性に関しては、全国
の電力会社で検査データの改
ざんや、過去にあった制御棒の
脱落事故を隠していたことが
いつ〇七年春、「どういふこと
だ」という意味の小文を新聞に
載せたところ、電気事業連合会
の方が自宅に説明に来られた。
そのとき深く考え込んだのは、
なぜ公表しなかったのか、その

都会の人も当事者

■原発と地震の問題は立地地域だけにとどまらない。

新潟や浜岡原発を抱える静岡といった個別の自治体の住民が不安を訴えるだけでは不十分。地方に電力をつくってもらって、いる東京とか大阪の人間が自分

たちの問題として考える必要がある。地震国という条件の中で、原発を動かすメリットは、どれほどのものなのか。もちろん、原発全部をすぐに運転停止にするのは不可能です。だから半世紀ぐらしかけて原子力以外のもの で電力を賄うような決断をして

いかなければならない。そのためには当然、都会の人間が電力を使う量を減らさないと駄目。もちろん、今稼働中の原発の耐震強化をどんなにお金が掛かって進むことは当たり前のこと。そのコストも私たちが負担しなければならない。

■阪神大震災は高村さんにとって大きな転換点となった。

中越沖地震の被災者も同じだ

■ 柏崎刈羽地域では、原発は経済にも生活にも根を下ろしている。これからはどうするのか。答えは簡単ではない。

思考停

つたでしょう。揺れている最中は頭が真っ白。ぴくりとも体が



現在、55基の原発を抱える日本で暮らすことを「憂鬱（ゆううつ）な状態」と語る高村薫さん。大阪府吹田市の自宅

たかむら・かおる 1953年大阪府生まれ。国際基督教大卒。商社勤務の傍ら小説を書き始め、「マークスの山」で直木賞受賞。作品は、福井県の関西電力高浜原発をモデルにした「神の火」のほか、「照柿」「レディ・ジョーカー」「晴子情歌」「新リア王」など。吹田市在住。

原發を誘致してきた地方は電
源三法のお金で經濟が回つてき
たという事実もあるので複雑か
もしれない。確かに非常に難し
いが、要するにこの状態を脱し
たいのか否かという選択が最初
にあるべきだと思う。地方はこ
のままよく自治体として成り
立たないほど、人口的にも産業
的にも疲弊の一途をたどるだろ
う。最初に自分たちはどうした
いのかという意思をはっきりさ
せるのは地方だと思う。新潟と
いう地方の中で生活できるよう
な經濟を回していく。その方策
を考へるのは新潟の人であり、
新潟の政治家ですよ。

大阪も斜陽の一途です。長年、
この斜陽や疲弊を味わつてきて
今、痛切に思います。何のため
に政治はあるのか。私たちの望

新潟の政治家ですよ。

日本で原発と生きるということ

地震国・日本で原発とともに生きるということは何を意味するのか。一九九五年の阪神大震災以降、地震の活動期に入ったといわれている日本列島。二〇〇七年七月十六日に発生した中越沖地震では、東京電力柏崎刈羽原発の施設が広範囲な被害を受けた。問題はこれだけにとどまらず、東電が原子炉設置許可申請時の評価を覆し、中越沖地震の震源近くに大きな活断層があると認める事態に発展した。全七基を擁する世界最大の原発集積地を襲った震度6強の揺れは、原発の「安全神

揺らぐ安全神話 柏崎刈羽原発

話を根底から揺さぶり、耐震安全性の再構築という課題を突き付けた。被災地の住民が一日も早い生活再建と原発の安全性確立を願う一方、柏崎刈羽原発の電力消費地である首都圏では、原発の存在をほとんど意識しないような日常が続いている。地震の巣である活断層がいくつも走る日本の商業原発は現在、五十五基。不安が重くのしかかる中で、立地地域の住民は将来をどう描いていけばいいのか。阪神大震災を経験し、原発を題材にした著作もある作家の高村薫さんと一緒に考えた。

作家 高村薫さんと考える

欠かせぬ説明責任

■柏崎刈羽は原発施設が地震で大きな被害を受けた初のケースとなった。「新リア王」という小説の中で、一九七〇年代に始まった通産省（当時）主導の原発政策の進め方や、青森県下北半島に再処理工場が誘致されていく十数年間の顛末を描いた。実は誘致の段階で下北半島でも活断層の存在が指摘されていた。しかし、当時は一部の学者の意見として片付けられ、やむを得なかった。今回、活断層の真上にかかるよ

理由でした。例えば、制御棒の脱落は技術者のレベルでは、事故に至らない確信の範囲内であるらしい。いちいち報告するに値しない事象であったから報告しなかったのだという調査結果であったと

要するに情報開示の以前に、日本の原子力政策は七〇年代に本格化したときから、安全か否かという技術者レベルの判断と、私たち一般の理解とが絶えず、ずれてきた。両者共通の理解に達するような努力がなされ

電力会社が個々のトラブルを隠してきたことに加え、国がもっと大きな活断層の情報を隠すということとは明らかに言語道断

言っんです。それではまずい。手間をかけても技術者の理解を私たちに伝えてもらわなければ困る。

てこなかった。安全性を説明する責任は電力会社と国にある。■東電も国も柏崎刈羽原発周辺海域で〇三年に、活断層の疑いが強い断層七本を把握しながら伏せていた。

■原子力の問題とどう向き合えばいいのか。技術的な安全評価の説明を聞いて納得できる部分と、そうでない部分とに分けて考える必

新年
特集

32面
33面
34面

「命第一」の発想へ転